

速報第2934号 H30. 6. 19発行 総務課 扱	道議会における質疑・質問及び答弁要旨	平成30年 文教委員会 6月18日	質 問 者	菊地 葉子 委員 日本共産党 (小樽市)
質 疑 ・ 質 問		答 弁		担 当 課
<p>一 公立高等学校配置計画案（平成31年度～33年度）について</p> <p>（一）南幌高校の募集停止について</p> <p>1 地域との協議について</p> <p>私からも公立高等学校の配置計画案について、何点かお伺いしたいと思います。公立高校の配置計画案が公表された翌日、該当地域の皆さんの悲喜こもごもの思いが報道されていました。募集停止となった南幌町の町長のコメントを痛々しく読み取ったところです。南幌高校の募集停止について何点かお伺いしていきますが、指針では、配置計画の策定に当たってはこれまで以上に幅広く丁寧に意見を伺うほか、関係市町村とも十分協議しますとあります。この度の南幌高校の募集停止に向けてどのような意見聴取、協議が行われたのか、お伺いします。</p>	<p>（配置・制度担当課長）</p> <p>地域との協議についてでございますが、南幌高校におきましては、平成25年度に第1学年が1学級となり、配置計画における見通しの中で、「中卒者数や地元からの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要」としたところであり、それ以降、南幌町の関係者に対しまして、道教委が推計した中卒者数の状況や今後の入学者見込みなどの情報を提供し、南幌高校の在り方について協議を行ってきました。</p> <p>更に、昨年11月には、南幌高校振興協議会主催の住民を対象とした説明会に参加し、南幌高校の現状や今後の在り方について説明いたしますとともに、地域の方々のお意見を伺ってきたところでございます。</p>	<p>高校教育課</p>		
<p>2 入学者確保のための取組について</p> <p>そうした地域協議を進めながらも、入学者の減少傾向に際し、道教委と地元自治体、教育関係機関と対策を取られたかと思いますが、どのような対策がとられていたのか、お伺いします。</p>	<p>（配置・制度担当課長）</p> <p>入学者確保のための取組についてでございますが、道教委といたしましては、小規模校における教育環境の充実のため、道単独で教職員の加配措置を行っており、南幌高校におきましては、この加配に加え、国の加配も活用し、個に応じたきめ細かな教科指導や生徒指導の充実にも努めますとともに、高齢者施設の行事に参加するなど地域との関わりを大切にボランティア活動にも取り組んできたところでございます。</p> <p>また、南幌町では、通学費や資格取得のための補助のほか、南幌高校へ入学した場合に、入学祝い金を支給するなど、入学者の確保に向けた取組が行われてきたところでございます。</p>	<p>高校教育課</p>		
<p>3 地元以外からの入学見込みについて</p> <p>今年度の入学者10名のうち、地元からの入学者が3人ということです。地元からの進学率が低いということでは、指針が示す再編の要件に合致していますが、地元以外からの入学者については、今後の見通しをどのように評価されたのか、お伺いします。</p>	<p>（配置・制度担当課長）</p> <p>地元以外からの南幌高校への入学見込みについてでございますが、南幌高校の過去3年間における地元以外からの入学者は、平成28年度が15人、平成29年度が8人、平成30年度が7人と減少傾向にあり、うち、多数を占める江別市内からの入学者は、平成28年度が9人、平成29年度が7人、平成30年度が4人と、同じく減少傾向にあります。</p> <p>道教委といたしましては、こうした近年の進路動向や全道的な中学校卒業生数の減少傾向を踏まえ、今後におきましても、地元以外からの入学者数の増は見込めないものと考えております。</p>	<p>高校教育課</p>		
<p>4 在学生の意見の聞き取りについて</p> <p>人数的には、確かに減少の傾向は否めませんが、南幌の高校を頼みに不登校だった生徒が通学していたという事例もあったと伺っております。こうした状況も踏まえて、在学生の意見の聞き取りについては、どのように行ったのか、お伺いします。</p>	<p>（配置・制度担当課長）</p> <p>在校生の意見の聞き取りについてでございますが、在校生全体からの意見は聴取しておりませんが、先ほど答弁いたしました、昨年11月に開催された、南幌高校振興協議会主催の住民を対象とした説明会におきまして、南幌高校の生徒の代表から意見を伺う機会があり、生徒からは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家が近くて、通学時間が短く、交通費もかからない。</li> <li>・進路決定について、担任の先生はもちろんたくさんの先生に協力していただいた。</li> <li>・検定料が免除になるので、色々な検定にチャレンジしやすい。</li> </ul> <p>など南幌高校の魅力について発表があったところでございます。</p>	<p>高校教育課</p>		
<p>5 通学状況について</p> <p>南幌町内の中学校卒業生の多くが江別市、札幌市、岩見沢市などに通学していると伺っています。通学における交通状況の調査なども行い検討されたのか、お伺いします。</p>	<p>（配置・制度担当課長）</p> <p>南幌町内からの通学についてでございますが、南幌町は空知南学区の高校に加え、隣接する石狩学区の一部の高校の通学区域となっておりますことから、現在、これらの学区の高校に多くの生徒が通学しております。</p> <p>そうした生徒の通学状況は、例えば、南幌町内から空知南学区の栗山高校まで、公共交通機関により35分程度、石狩学区の江別市内の高校まで45分程度、北広島市内の高校まで35分程度で通学できる状況となっております。</p>	<p>高校教育課</p>		

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>(意見)</p> <p>1 時間足らずで通学できる状況ではあるようですが、これも、これが通常の通学時間であるらしく、例えば期末テストだとか、中間テストだとか、授業が早く終わるとか、そういう時には、なかなか接続する公共交通機関が少なくなって大変だという状況も聞いています。そういうもっときめ細かな通学状況が把握できているのかは疑問に思っているところです。</p> <p>6 募集停止の見直しについて</p> <p>今後、このような計画案については、地域で改めて説明に入ると思いますが、来年度、再来年度で入学希望者が増えたら募集停止の配置計画案の見直しが当然あると思いますが、念のためお伺いします。</p> <p>(二) 配置計画案について</p> <p>1 再編整備が見込まれる小規模校について</p> <p>配置計画案について何点か伺っていきますが、2021年までの配置計画だが、中学校卒業生数の見込みはその先も予測可能ではないでしょうか。今後10年の間で南幌町のような条件で再編成されていく高校はこの道内で何校と見込んでいるのか、お伺いします。</p> <p>2 小規模校における特色ある教育活動について</p> <p>このたびの計画案では、道立、私立、町立とそれぞれの枠組や垣根を越えた統合により、地域に高校が存続する案も示されています。学校を存続させようと地域ぐるみで検討された結果だろうと思いますが、南幌町のような地理的条件で高校を存続させようと考えた場合、こういった特色ある教育活動が考えられるのか、お伺いします。</p> <p>3 教育環境の維持について</p> <p>一方で進学したい高校としては普通高校の希望が多いこと、また、自宅の近くなど通学がしやすい学校を希望する声も多い。教育環境としては、こうした望む声に中学校卒業生数の見込みと望ましい学校規模にとらわれていては生徒や保護者の望む教育環境から遠ざかる配置計画になっていくのではないのでしょうか、お伺いします。</p>	<p>(配置・制度担当課長)</p> <p>南幌高校の募集停止についてでございますが、この度お示しした計画案につきましては、議会で御議論いただくとともに、7月には空知南学区におきまして、第2回目の地域別検討協議会を開催し、地域の方々に対し、計画案策定の考え方などについて十分説明の上、御意見を伺うこととしております。</p> <p>さらに、地域別検討協議会だけでなく、必要に応じて直接地域に出向き、道教委の考え方を改めて説明するなど、できる限り地域の御理解をいただけるよう努めてまいりたいと考えております。</p> <p>また、「これからの高校づくりに関する指針」においては、計画策定後、急激な中学校卒業生数の増減や生徒の進路動向に大きな変動などが生じた場合には必要に応じて変更を行うこととしておりますことから、南幌高校につきましても、次年度以降の入学人数や生徒の進路動向について注視してまいり考えてございます。</p> <p>(配置・制度担当課長)</p> <p>今後の高校配置についてでございますが、高校配置計画につきましては、高校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本としているため、検討に当たっての基礎となる中学校卒業生数の状況、欠員の状況、生徒の進路動向などにつきましては、直近の数値を用いることが最適と考えております。</p> <p>こうしたことから、配置計画につきましては、向こう3年間の計画として、毎年度策定しており、10年後の具体的な高校配置を見通すことは行っておりませんが、中学校卒業生数の減少が見込まれる中、教育水準の維持向上に向けて、教育環境の充実を図るためには、高校の再編は避けて通れない課題であると考えております。</p> <p>(企画・支援担当課長)</p> <p>小規模校における特色ある教育活動についてでございますが、小規模校では、地域の関係機関と連携するなどして、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生を対象にした観光施設などにおける仕事体験の企画・運営</li> <li>・海外からの観光客等に配布する英語を併記した観光ガイドの作成</li> <li>・小中学校の給食や地元レストランで提供する地域の特産野菜を使ったメニューの開発</li> </ul> <p>など、地域の教育資源を取り入れた特色ある教育活動が行われているところでございます。</p> <p>こうした取組は、地域の小中学生にとっても、高校をより身近なものとする機会になるとともに、地域理解を促進し、地域に貢献しようとする意欲をもった人材育成につながるものと考えているところでございます。</p> <p>(高校配置担当局長)</p> <p>地域における教育環境の維持についてでございますが、中学校卒業生数の減少が引き続き見込まれる中、一定規模の生徒や教職員による活力ある教育活動を展開していくためには高校の再編は避けて通れない課題ではありますが、再編する場合であっても、一律に行うのではなく、本道の広域性や地域の実情などを十分考慮する必要があると考えております。</p> <p>道教委といたしましては、今後とも、高校の在り方などについて、地域の方々の御意見を丁寧に向うなどしながら、検討を進め、未来を担う人材の育成に向けて、教育環境の一層の充実に努めてまいり考えてございます。</p>	<p>高校教育課</p> <p>高校教育課</p> <p>高校教育課</p> <p>高校教育課</p>

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>(意見)</p> <p>一律に行うものではない。地域の方々の御意見を丁寧に伺うとこのように繰り返していますが、地域連携特例校化、職業学科の特色ある高校でなければ、1時間くらいの通学距離ならどんどん集約していく。これがこの計画の進む道ではないでしょうか。普通学科の学校への進学希望が多いこと、また、生徒の通学負担、保護者の財政負担を考慮することも教育の機会均等から大事です。1学級の定数を減らして、道の財政措置、そういうことを決断しなければ、生徒の教育の機会均等、また、北海道の教育をどうしていくか、道教委の決断の方向が求められているのではないかと。今後、この計画案につきましては、地域別検討協議会の開催などで聞いていくと思うが、ありきではなく、文字通り丁寧に御意見を聞くという姿勢を堅持していただきたいとこのことを申し上げてまして質問としたいと思います。</p>		